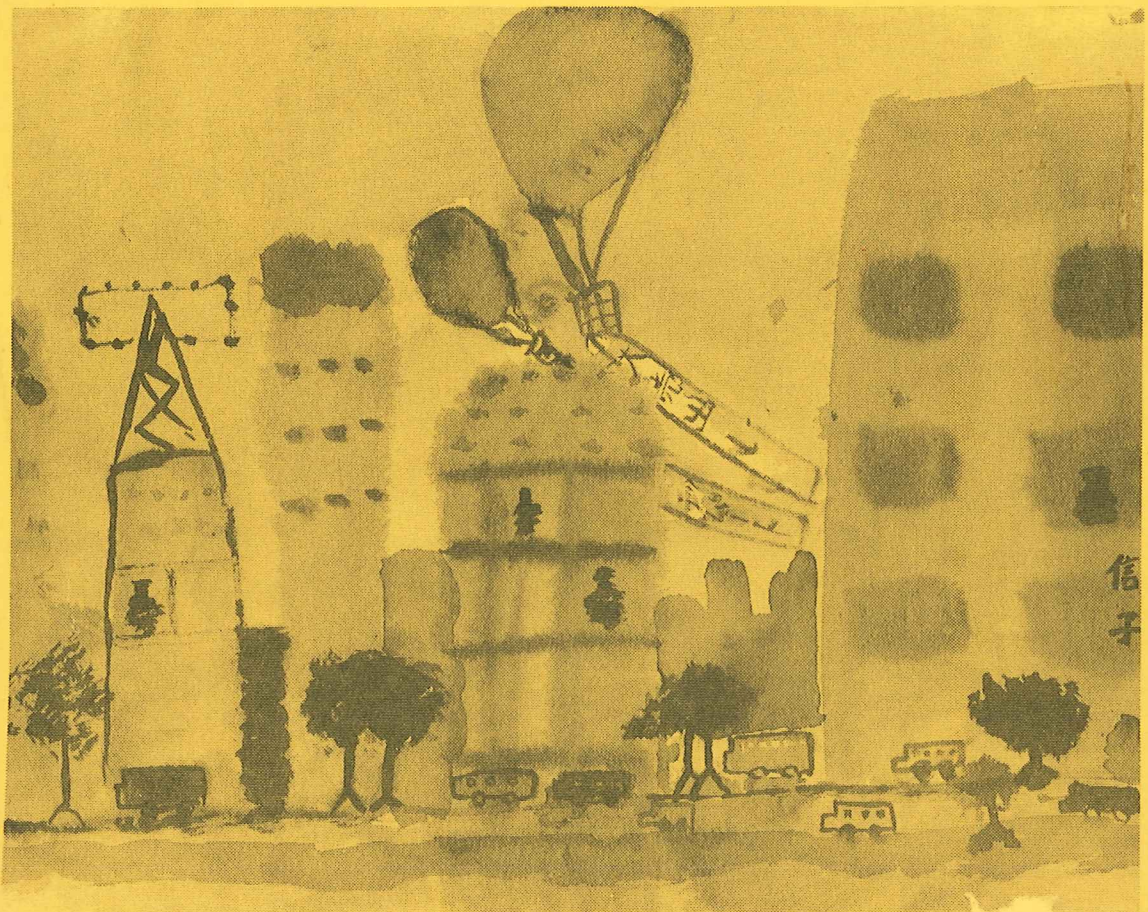


国語 八



笑

うえの かんじは、わらう と よみます。

したの かんじは、なく と よみます。

ふたつの かんじを じっと みて いて ください。

わらう は わらいがおに、

なく は なきがおに みえて きます。

かんじは、いきものなのです。

この ほんは、いきて いる かんじを、

わたしたちの せいかつの ばめんで、

いきたまま みに つけられるように、

くふうして つくられたものです。

さあ、みなさん

たのしく かんじを おぼえましょう。

泣

1. まず、これだけはおぼえよう (基礎) 1
2. 履歴書を書こう (履歴書) 3
3. ひっこしのあと (衣・食・住) 7
4. うちのおばあさん (身体) 10
5. おばあさんの病気 (病院) 12
6. ぼくどきみが くらすまち (公共施設) 14
7. 注意して よく見よう (標識) 16
8. 電車にゆられて (交通) 18
9. わたしの四季 (自然) 20
10. 地図をひらいて (地理) 23
11. いろいろな仕事 (職業) 27
12. 楽しい勉強 (学校生活) 29
13. 外に向かって目をひらこう (社会生活) 32

14.	ひとりひとりの人生（個人生活）	34
15.	勉強したことを整理しよう（練習）	36
	(1) 反対の意味を表すことば	36
	(2) なぜ、漢字にはいろいろな読み方があるのでしよう	38
	(3) 漢字あそび	40
	(4) 部首でなかまの漢字をおぼえましょう	42
	(5) 慣用句を学びましょう	46
16.	生活基本漢字の読み方と筆順	49

（表紙 曳舟中学校三年 田中 信子）

1. まず、これだけはおぼえよう（基礎）

一・二・三
四・五
六・七・分
八・時
九・十
百・円
月・火・水・木
金・土・日
千・万・枚
赤・青・白・黒
黄
字

一、二の三で、とびおきろ。

四の五のどいつているひまはない。

いつも、あさめし六、七分。たまには、ゆっくりたべたいが、

八時のしゅっきんじこくにまにあわない。

しごとをはじめて九時、十時。あつというまに、おひるどき。

ひるめしだいは、三百円。いつものていしょくたいらげる。

月、火、水、木、金よう日、土よう日はすこしくたびれた。

あしたは、たのしい日よう日。

一万円さつや千円さつは、なん枚のこっているだろうか。

赤字になったら、たいへんだ。青いかおしてかぞえてる。

どんなセーターかおうかな。かのじょは白がよくにあう。

黒もあんがいびったりだ。黄いろのもようがかわいらしい。

大・小・中

前・後

半

人・熱い

左・右

明治・大正・昭

和

多い・少ない

広い

上・下・冷たい

れんしゅう

すこし大きめなのがいいのかな。小さいのではきゅうくつだ。中っくらいのはないかしら。

前からみたり、後ろからみたり、えらんでる。

半がくにねぎってみるのは、むりだろうか。

おみせの人が、わらっている。あたまが、かっかと熱くなる。

あわてて左右をみまわした。

明治の人は、おしゃれじゃない。大正の人は、少しおしゃれ。

昭和の人は、どうかしら。

少ないおかねだ。広いおみせに、多いしな。まよってしまふのがあたりまえ。

上から下まで、かけおりた。そどのかぜはもう冷たい。

次の文を読んでみましょう。

すこし大きい小さいがあるかもしれないが、多少の大小はかんべんしてください。

2. 履歴書を書こう（履歴書）

氏名
生年月日
歳（才）
親・父・母
男・兄・弟
女・姉・妹
妻

氏名とは、「みょうじ」と「なまえ」のことです。

あなたの氏名を、正しく書きましょう。

氏名はよみかたのむずかしいものがありますので、よみがなを

ひらがなで、上に書きましょう。

じぶんの生まれた生年月日を書きましょう。

あなたの年齢は、なん歳ですか。

父や母を親といます。

父と母を両親ともいいます。

続柄は、あなたからみた関係です。

男のきょうだい、兄と弟です。

女のきょうだいは、姉と妹です。

男の人の配偶者を、妻といます。

夫	住所	子	印
---	----	---	---

女の人の配偶者を、夫といます。

二人をさして、夫妻といます。

あなたの現住所はどこですか。

子どもがいる人は、氏名を書きます。

家族の氏名、続柄、年齢は、まちがえないで、正しく書きましよう。

印は「はんこ」ともいいます。

さいごに、印を忘れないでおしましよう。

れんしゅう

次の文を読んでみましょう。

夫婦なががいいのは、とてもいいことです。

(夫妻は正しくない方。夫婦はふだんのいい方。)

資格・特技	資格年月	資格・特技名
趣味		
所属クラブ等		
志望の動機		

家 族	氏名	続柄	性別	年齢	氏名	続柄	性別	年齢
				男・女				男・女
			男・女				男・女	
			男・女				男・女	
			男・女				男・女	
			男・女				男・女	

備考	
----	--

履 歴 書 ・ 身 上 書

昭和 年 月 日 現在

ふりがな				男 ・ 女	写真をはる位置 (名刺判)
氏 名	㊦				
生年月日	昭和 年 月 日生 (満 歳)				
ふりがな					
現 住 所	〒 □□□-□□				
ふりがな					
連 絡 先	〒 □□□-□□				
保 護 者 氏 名		本人との 続 柄		年 齢	満 歳

(連絡先欄は現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入しなさい)

履	学 歴	年	月	
		年	月	
		年	月	
歴	職 歴	年	月	
		年	月	
		年	月	
		年	月	
		年	月	

(職歴にはいわゆるアルバイトは含まない)

3. ひっこしのあと（衣・食・住）

寝る

起きる

部屋

階

家

火

紙

ひっこしのでつだい、ありがとう。

どう、いいアパートだろう。

学校^{がっこう}まで、あるいて十分だ。

十一時には寝られるよ。

でも、会社^{かいしゃ}がとおくなった。

起きるのが、つらくなるなあ。

部屋はせまいけど、日あたりがいいんだ。

二階で、みなみむきだからね。

となりの家が、大家さんだよ。

火に気^きをつけてくれといわれた。

ここの住所は、この紙に書^かいておいたよ。

飲む・水

食べる

米・油・魚・肉

買う

酒

金

高い

安い

おぼえやすいだろう。

水が飲みたいの？

お茶ちやをいれるよ。

なんにもないけど、夕食ゆうしょくを食べていきなよ。

米と油はあるから、魚か肉を買ってこよう。

どっちがすきかい？

酒も少し飲まないか？

ビールのほうがいいかな。

お金はあるから、えんりよすることないよ。

米やたばこのねだんが高くなると、いたい。

でも、このへんのみせはなんでも安くてたすかる。

このセーターは九百八十円だった。

どうだい、安いだろう。

売る

服

着る

糸

電気

ズボンも安く売っていただけ、この次にしたんだ。

その服はいいね。

ちよつと着てもいい？

どこで買ったの？

高そうだなあ。

あれ、ボタンがとれそうだ。

糸がゆるんでいるよ。

そこに糸とほりがある。

ああ、もうくらいね。

電気をつけよう。

じゃあ、買いものをしてくるね。

4. うちのおばあさん（身体）

体・目・耳

歯

手・足

指・骨

口

胸

頭
腹

うちのおばあさんは七十五歳です。

体はじょうぶで、目も耳もはっきりしています。

歯は入れ歯ですが、

なんでもたべられます。

手足を動かして働くのが好きです。

指は骨ばって、がっしりしています。

おばあちゃんはチャンチャンコを着て、日なたぼっこをします。

ときどき口をあけたまま、いねむりをします。

ネコを胸にだいてあそんだりします。

ところがある日、おばあさんは元気がないようです。

かぜをひいたらしくて、頭がいたい、とっています。

腹はこわしていませんが、

鼻・息

顔・首・血

胃

身うち

鼻が^がつまつて息ぐるしいようです。

顔も赤いし、首すじもこって、^{けつあつ}血圧が^が上がったようです。

胃も、ときどきいたむそうです。

身うちの^{もの}者があつまつて、しんぱいしています。

れんしゅう

骨、胸、腹、胃のように、もじのなかに「月」（にくづき）がどこかに
はいつている字をさがして、書いてみましょう。

5. おばあさんの病氣（病院）

病院

やはり、病院でみてもらうことになりました。

救急

わたしはおばあさんをつれて、病院にいきました。

入口

南病院は、救急病院です。

内科

入口を入るとすぐに受付があります。

外科

おばあさんとわたしは内科のところであちます。

小児科

となりは外科です。

小児科のところには子どもをつれたお母さんがいます。

そのとなりは産婦人科です。

おばあさんの名前がよばれました。

わたしは診察室のドアをあけてやりました。

お医者さんは女の人でした。

「かぜです。たいしたことはありませんが、おうちでゆっくり

薬

休やすんでください。

と言いわれました。

看護婦かんごふさんも、みんな親切しんせつです。

病院の薬局きやくで薬をもらい、

おばあさんをつれて帰かえりました。

おばあさんも、ほっとしたようです。

今朝けさよりも、顔色いろがよくなり、さっそく休やすみました。

わたしは、おばあさんが、はやく元気になるように一生けんめい看護かんびよしました。

れんしゅう

薬から「サ」(くさかんむり)をとると、どんな字になりますか。(その字は、30ページにんでいます。)

6. ぼくときみが くらすまち（公共施設）

公共施設

きょうからきみがすむまちを、あんないしよう。

このへんには、公共施設がたくさんある。

ひとりぼっちのぼくらにとって、たよりになるところだ。

あれが、区役所だ。

区役所で、この区に住むという、届けを出した。

保健所

となりのたてものは、保健所だよ。

ぼくは、保健所でしらべてもらって、病気がわかったのだ。

福祉

道のむこうに福祉事務所がある。

ぼくは、医療補助をうけて病気をなおした。

職業安定所

それから、職業安定所でしごとをさがしたのだ。

職安の建物は、ここからは見えない。

公園

することがなくひまなときは、公園にいた。

銀行

郵便

警察

番号

ぶらんこにゆられてね。

公園のわきにあるきれいな建物は、銀行だ。

外そともきれいだが、中うちもきれいだよ。

あの銀行によって、貯金ちよを少しだけおろしていくよ。

なにかうまいものを、おごってあげるからね。

この郵便局きよで、切手とはがきを買っていこう。

むこうにみえるのが警察署しよだ。

電柱でんちゆうに「住居表示板じゆきよひょうばん」が、はってあるだろう。

あの番号をたどっていけば、どこにでも行けるよ。

きみとぼくとで、どこにでも……。

7. 注意して よく見よう (標識)

看板

いま、地^じしんや火事^{かじ}にあったらどうしますか。

ふだんから、看板や標識を 注意してよもう。

たてもものの中では、非常口をたしかめておくようにしよう。

くらくても わかるように、「非常口」と、かいてある。

非常口

「危険」と でているところは、あぶないのだから、ちかよらな

いほうがいい。

危険

「注意」というのも、よく見る標識だ。きをつける、ということだ。

禁煙

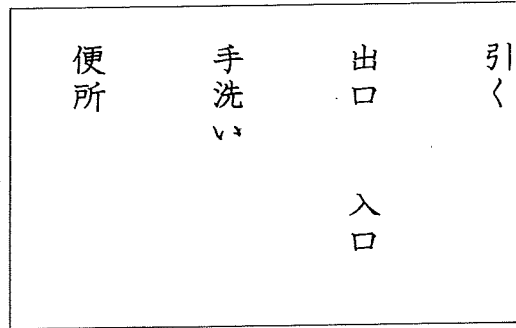
「禁煙」とかいてあるところでは、もちろん、ぜったいにたばこを すってはいけない。

自動

おみせのドアに「自動」と、かいてあったら、まえに立つとひとりで、あいたり、とじたりする。

押す

押 とあったら 押して あける。



れんしゅう

便所のことを「お手洗い」「化粧室」と書いてある時があります。あなたは、正しく読めますか。

引とあったら、引っぱればひらく。

えきみたいな、人の多いところは、「出口」と「入口」がわかれている。

まちがえると、ごったがえすので、えきいんさんに注意される。

次は、いちばんたいせつなところ、お手洗い（便所^{べんじょ}）の看板。

黒や赤の、  のえで、男と女をくべつしている。

8. 電車にゆられて (交通)

電車
乗

運
転

地下
鉄

特
急

急
行

交
通

今日も、ぼくは電車に乗って会社に行く。学校へ通う。

満員電車の中で、考えた。

今は、どこへ行くにも、べんりになった。

車が運転できれば、あちこちに行ける。

地下鉄の路線は網の目のように発達している。

遠くに行くときは、特急や急行が速くていい。

新幹線なら、もつと速い。

でも、いいことばかりではない。

交通事故もふえた。公害も出てきた。

人は、人がつくった車のために、えんりよして、ほこりっぱい

道路

普通
駅

定期

道路のすみを歩いてる。

こんな満員電車に乗って、あくせくとどこかに行こうとして
る。

まどのけしきを、ゆっくり見ようともしない。

ぼくは、各駅停車の普通電車に乗りたい。

急がず、ゆっくりと走る列車に、

ときたま、とちゅう下車をしながら……。

新幹線みたいに、わき目もふらず、まっしぐらというのは、
が
らではない。

駅についた。電車からはじき出される。

二枚の定期券、通勤と通学を使って、

今日も、ぼくは電車に乗って会社に行く。学校へ通う。

9. わたしの四季しき（自然）

春 土 花 川 雨 夏 夜 田 草 空

春はるがくる。

土つちからめがでる。

花はなもさく。

ななの花、タンポポ、ハルジオン。

川かわの水もぬるむ。

ややわらかな雨あめがふる。

夏なつがくる。

夜よあけははやい。

田いりうえがはじまる。

草くさ木きがしげる。

空そらにはにゅうどうぐもがうまれる。

冬

石

風 秋

山 海

昼

昼まはあつい。

日はつよい。

海がこいしい。

山がこいしい。

秋がくる。

風がすずしい。

空もたかく、すんでいる。

空にむかって石をける。

海には、だれもいなくなる。

木のみはいろづく。

ながい夜がつづく。

冬がくる。

草はかれる。

朝

木もはだかになる。

雨もつめたい。

朝がづらい。

山も海も、冬にとどぎされる。

春夏秋冬、わたしの四季。

れんしゅう

雨（あめかんむりといいますが、9ページと19ページ（おなじ字で
す）にあります。さがしてごらん下さい。

また、ほかに「あめかんむり」のつく字を知っていたら書いてください。

地 北 南 東 西 都 府 県

10. 地図をひらいて（地理）

世界地図をひらいてみよう。

上の方が北、

日本のはるか北には北極海がある。

下の方が南、

日本のはるか南にはオーストラリアがある。

右の方が東、

日本の東には太平洋が広がっている。

左の方が西、

日本の西にはアジア大陸がある。

日本地図をひらいてみよう。

日本は四十七の都道府県にわかれている。

区 市 町 村

「都」は、東京都一つ、

「道」は、いちばん北の北海道、

「府」は、関西にある大阪府と京都府、

「県」は、四十三ある。

いちばん南は沖繩県だ。

東京都には、「区」が二十三あり、「市」は三十六ある。

わたしたちの学校 中は 区にある。

八王子五中は八王子市にある。

また、東京には「町」も「村」もある。

西多摩郡と伊豆諸島・小笠原諸島にある。

都道府県名の読み方をおぼえよう

1. 北海道

2. 青森県
3. 岩手県
4. 宮城県
5. 秋田県
6. 山形県
7. 福島県

東北地方（六県）

8. 茨城県
9. 栃木県
10. 群馬県
11. 埼玉県
12. 千葉県
13. 東京都
14. 神奈川県

関東地方（一都六県）

（一都一道
二府四十三県）

15. 新潟県
16. 富山県
17. 石川県
18. 福井県
19. 山梨県
20. 長野県
21. 岐阜県
22. 静岡県
23. 愛知県

中部地方（九県）

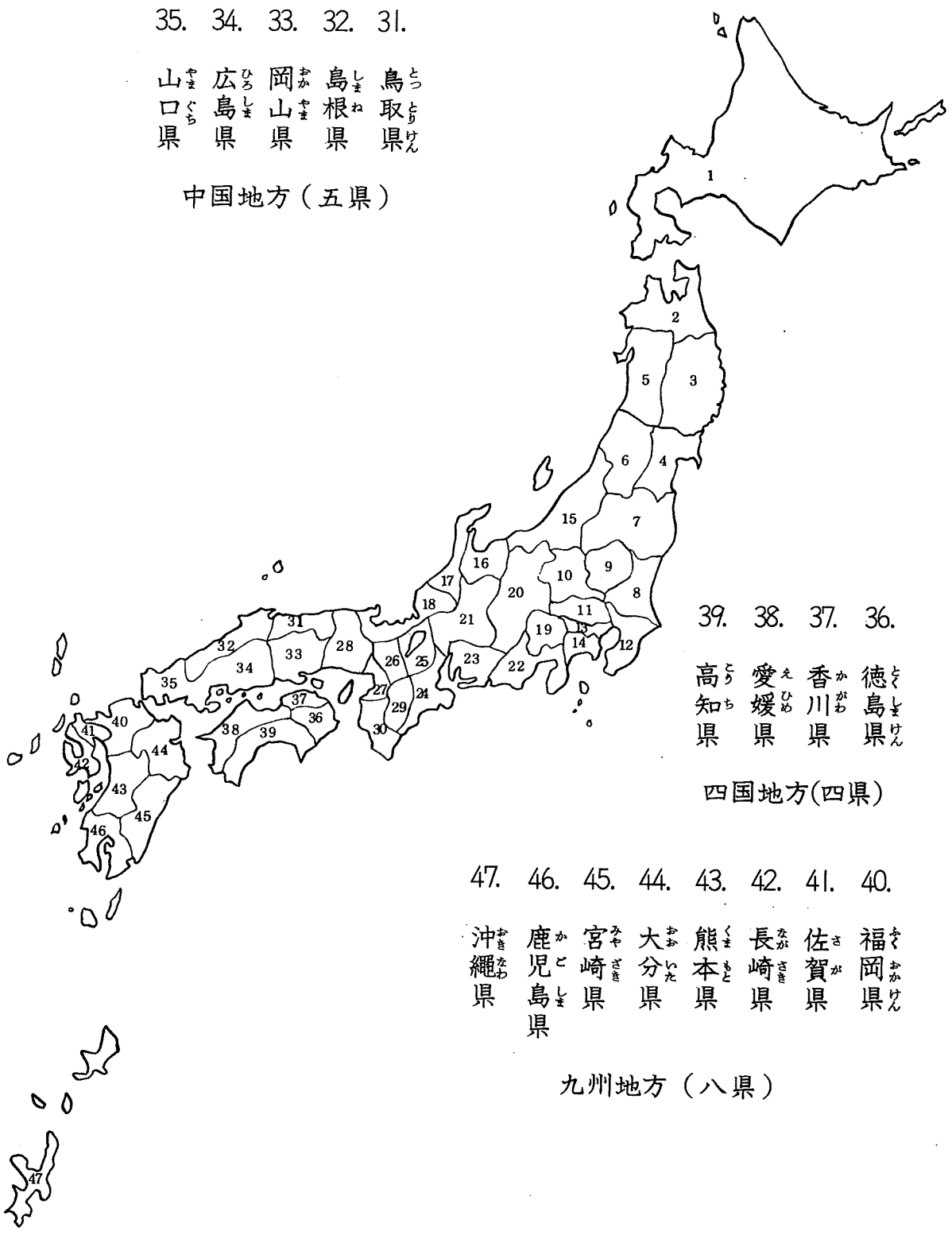
24. 三重県
25. 滋賀県
26. 京都府
27. 大阪府
28. 兵庫県
29. 奈良県
30. 和歌山県

近畿地方（二府五県）

35. 34. 33. 32. 31.

山口県 広島県 岡山県 島根県 鳥取県

中国地方(五県)



39. 38. 37. 36.

高知県 愛媛県 香川県 徳島県

四国地方(四県)

47. 46. 45. 44. 43. 42. 41. 40.

沖縄県 鹿児島県 宮崎県 大分県 熊本県 長崎県 佐賀県 福岡県

九州地方(八県)

11. いろいろな仕事（職業）

仕事
職業
会社
営業
商店
届ける
働く
事務
工場
作る
募集

職業の内容ないようについて、お話しはなししましょう。

私は、会社わたくしに勤めとめています。

営業の仕事えいぎょうをしています。

車で、いろいろな商店しょうてんをまわって、ちゅうもんをとります。

たのまれた品物しんぶつを届とけたりしています。

姉は、おかしやさんおかしやさんで働とっています。

かんたんな事務じむの仕事しごとをしています。

兄あにと弟いもうとは、工場こうじょうで働とっています。

きれいなおもちゃおもちゃを作つくっています。

募集ぼくしゅうのはり紙はりしをみて、会社かいしゃに行いきました。

労働
休み
給料
税金
失業保険
欠勤
手当
組合
残業

労働の時間は、八時間です。

昼休みは一時間あります。

終わりは五時です。

給料は、月に□万□千円です。

そのなかから、税金をおさめます。

失業保険の保険料もはらいます。

欠勤すると、皆勤手当はもらえません。

しかし、給料日は、たのしみです。

組合では、給料を上げる運動をしています。

私は、ときどき残業をします。

れんしゅう

あなたの仕事、あるいは、これからやってみたい仕事の名まえを漢字で書いてみましょう。

12. 楽しい勉強（学校生活）

学校	教室	勉強	一週間	始業	終業	生徒会	国語
----	----	----	-----	----	----	-----	----

ぼくは仕事が終わると、学校にどんで来る。

教室に入って、「こんばんは」というと、友だちのへんじが、かえってくる。

その声をきくと、学校に来たよろこびでいっぱいになる。

夏は日が長いので、学校に来てから運動ができる。

冬は日が短いので、学校に来るころにはもう日が暮れている。

学校では九教科の勉強をする。

一週間の勉強は、曜日ごとに時間割に組んである。

学校の始業は午後五時半で、終業は九時。生徒会やクラブの活動があるので、帰りは九時半をすぎることが多い。

国語では、いま漢和辞典の引き方を習っている。

数学で、かけ算やわり算を勉強したので、自分の給料も計算で

数 学
社 会 科
理 科
英 語
音 楽
美 術
技 術
家 庭 科
体 育
本
卒 業 式

きるようになった。

社会科では、地図の見方を習っている。

理科では、大気汚染のことも教わった。

英語のアルファベット二十六文字も、やっとおぼえた。

音楽の時間に、みんなで声をあわせて歌うと、気持ちさがさっぱりする。

美術や技術・家庭科では、連合作品展をめざして、みんないっしょうけんめい作品づくりにはげんでいる。

ぼくの得意な体育は、いまバスケットボールをやっている。

うまくなったら、よその学校と試合をやってみたい。

ぼくが一番つらいのは、勉強しているとき、仕事のつかれが出てねむくなることだ。

ゆっくり本を読む時間がないのもつらい。

でも、ぼくは三年間がんばって、胸をはって卒業式をむかえた
い。

ときどきぼくは、もし夜間中学校がなかったら、と考えることがある。

考えただけでもおそろしくなる。

「こんばんは」で始まる、この夜間中学校生活が、ぼくの人生の土台どだいとなると思う。

れんじゅう

次の文を読んでみましょう。

「授業の始めと終わりには、かねやチャイムがなる。」

れんじゅう

ここで学んだ漢字をつかって、学校生活を作文に書いてみましょう。

13. 外に向かって目をひらこう（社会生活）

世界・新聞
放送
公害
政治
良い・悪い
貧しい
弱い・強い
不自由・社会
法律
憲法・平和
民主主義

わたしたちは、日本や世界のいろいろなできごとを、新聞や、ラジオやテレビの放送で知ることができます。

毎日のニュースに注意して、生活に直接ひびく物価問題や公害問題などに関心をもつことが大切です。

また、わたしたちの生活は、政治が良いか悪いかで、ずいぶんちがってきます。

貧しい者や弱い立場の者が、強い者におさえつけられて、自分の思っていることも言えないような不自由な社会では困ります。それぞれの国には、いろいろなきまりがありますが、それを法律といます。

一番もどになる法律は、憲法です。

日本の憲法は、平和と民主主義をかかっています。

無責任

戦争はけっしてしない、というのが日本の憲法の大きな特色です。

また、憲法には国民の権利もべられています。

国の主人公は国民であることや、だれもが健康で文化的な生活をする権利をもっていることが、はっきりときめられています。わたしたちは国の主人公として無責任なことではできません。

憲法が、くらしの中にどのように生かされているかしらべてみましょう。

れんしゅう

「無責任」や「不自由」のように、「無」や「不」のつくことばをさがしてみましよう。

14. ひとりひとりの人生（個人生活）

物・知る

思う

友

信じる

感じる

生きる・考える

愛する・願う

書く・様

他・意見

言う

心

物事を知らないってことは、つらいことだね。

な^なんど泣いたか分からない。

死^しにたい、と思ったこともあった。

そんなとき、いっしょに泣き、ともになやんでくれた友がいた。

そういう友こそ、信じることのできる友だと思う。

心から、ありがたい、と感じた。

今は、生きるってなんてすばらしいことだ、と考えている。

あとは、愛する人がほしいなあ、という願っただけだ。

では、手紙を書いて、君の気持ちを伝えたら。「○子様」と。

でも、他人の前で自分の意見を言えないぼくだ。

とても、そんなことはできないよ。

そんな弱^{よわ}い心でどうするんだ。

性 命 見る 自信 持つ

れんしゅう

でも、性格だから……。

命がけてやれよ。きつと読んでくれるさ。

見ただけでばかにされるんじゃないかな。

わたしの人生くらかった、ということになりそうだな。

そんなことないさ。自信をもてよ。

そうだなあ。勇気を出してペンを持つか……。

次の文の漢字のつかい方について考えてみましょう。

「そうい^いうことは、よくない」とか、「自分のことをはんせい^いしてみる」では、言や見はつかいません。なぜでしょう。

15. 勉強したことを整理しよう(練習)

(1) 反対の意味を表すことば

暗い	出席	欠席	安全	入院	退院	不注意
----	----	----	----	----	----	-----

入院	出席	上	起きる	強い	明るい
↑↓	↑↓	↑↓	↑↓	↑↓	↑↓
退院	欠席	下	寝る	弱い	暗い
注意	安全	左	着る	良い	広い
↑↓	↑↓	↑↓	↑↓	↑↓	↑↓
不注意	危険	右	ぬぐ	悪い	せまい

れんしゅう

1. 次のことばと反対の意味を表すことばを、下から選んで□に書きなさい。

① 大きい ↑ ↓ □

② 多い ↑ ↓ □

③ 良い ↑ ↓ □

④ 買う ↑ ↓ □

・少ない

・小さい

・悪い

・売る

2. 次の□のことばを、反対の意味になるものに分けて、()に書きなさい。

① () ↑ ↓ ()

② () ↑ ↓ ()

③ () ↑ ↓ ()

④ () ↑ ↓ ()

入口	前	自由
終業	出口	後ろ
不自由	始業	

(2) なぜ、漢字にはいろいろな読み方があるのでしょうか

日本ではむかし、草木のつぼみがひらくと「はな」と言いました。中国では「はな」をあらわすときに「花」という字を使っていました。中国から日本に文字が伝わってくると、「はな」をあらわすときに「花」をあてはめることにしました。「花」は中国では「か」と読み、日本ではその読み方と、自分たちの使っていた「はな」という読み方と両方使うようにしました。

むかしの中国の発音をもとにした「か」を「音」と言い、日本の言葉にあてはめた「はな」を「訓」と言います。

音読みの例 — 花火、花びら、花束、花嫁、花ざかり
訓読みの例 — 花びん、花だん、造花、花粉、開花

このように、中国の文字を日本語にあてはめて読むようになったため、漢字には、

「音」と「訓」の両方の読み方があるのです。

れんしゅう

次の漢字のよみがなを例にならって書きなさい。

(例)

音 訓

じょうげ
上下

ふぼ
父母

だんじよ
男女

きたかぜ
北風

たいふう
台風

つき
月が出る

げつようび
月曜日

音 訓

① 左右

② 兄弟

③ 姉妹

④ 山道

⑤ 山地

⑥ 人と会う

⑦ 会社

(3) 漢字あそび

れんしゅう

—線の漢字とにている漢字を下の□に書きなさい。

- ① 自|分の顔でいちばん好きなのはめ|だ。
- ② 百|から一を引くとしろ|になる。
- ③ とても美しい玉|を買ったのはおう|様だった。
- ④ あの島|にはとり|がたくさんいる。
- ⑤ ふ|とい木から、大きな実|がとれた。
- ⑥ 水|が冷えて固|まると、こおり|になる。
- ⑦ お皿|がわれて、けが|をした。親指|からち|が出た。
- ⑧ 休|みの日にはか|らだ|を動かそう。
- ⑨ 夜間|中学校は、連|合してうん|動会を開く。
- ⑩ 頭|がいたい時、く|すりを飲|むと楽|になる。

⑨	⑦	⑤	③	①
□	□	□	□	□
⑩	⑧	⑥	④	②
□	□	□	□	□

れんしゅう

漢字を組み合わせて
えらんで書きなさい。

□

に書きなさい。

⑥と⑩は、

□

の中から

⑤ 火を二つ ↓ □ ほのめ

④ 口を三つ ↓ □ しな

③ タを二つ ↓ □ おお
い

② 木を三つ ↓ □ もり

① 木を二つ ↓ □ はやし

⑩ 田 + □

⑨ □ + 石

⑧ 木 + □

⑦ □ + □

⑥ 日 + □

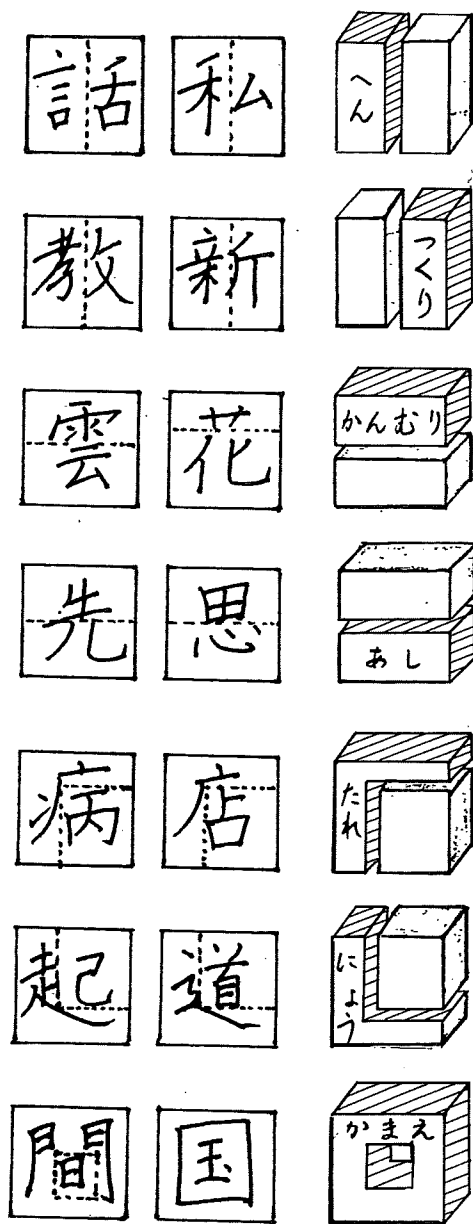
↓ ↓ ↓ ↓ ↓

□ ほのめ □ いわ □ よこ 働 はたら □ あか
く る
い

月 動 力 人 山 黄

(4) 部首でなかまの漢字をおぼえましょう

漢字は「積み木」のように、一つの字がいくつかの部分によって組み立てられています。漢字を組み立てるときのもとになる部分を「部首」といいます。部首は、漢字のどの部分につくかで、大きく次の七つに分けられます。



とても便利べんりです。

一つの部首がいろいろな漢字に使われますから、部首の名まえをおぼえておくと、

糸	木	扌	シ	イ	イ
いとへん	きへん	てへん	さんずい	いんべん <small>ごよう</small>	いんべん
雨	文	頁	金	日	言
あめかんむり	のぶん	おおがい	かねへん	ひへん	ごんべん
門	辶	心	疒	宀	艹
もんがまえ	しんにゅう	したごころ	やまいだれ	うかんむり	くさかんむり

信	海	計	時	持	行
徐	後	使	注	泣	明
押	酒	晴	役	住	話
汗	詩	指	休	曜	投
識	暗	仕	読	語	油
映	技	律	打	待	体



イ	言	シ	日	才	イ

れんしゅう

部首を目じるしにして、同じなかまの漢字を分けてみましょう。

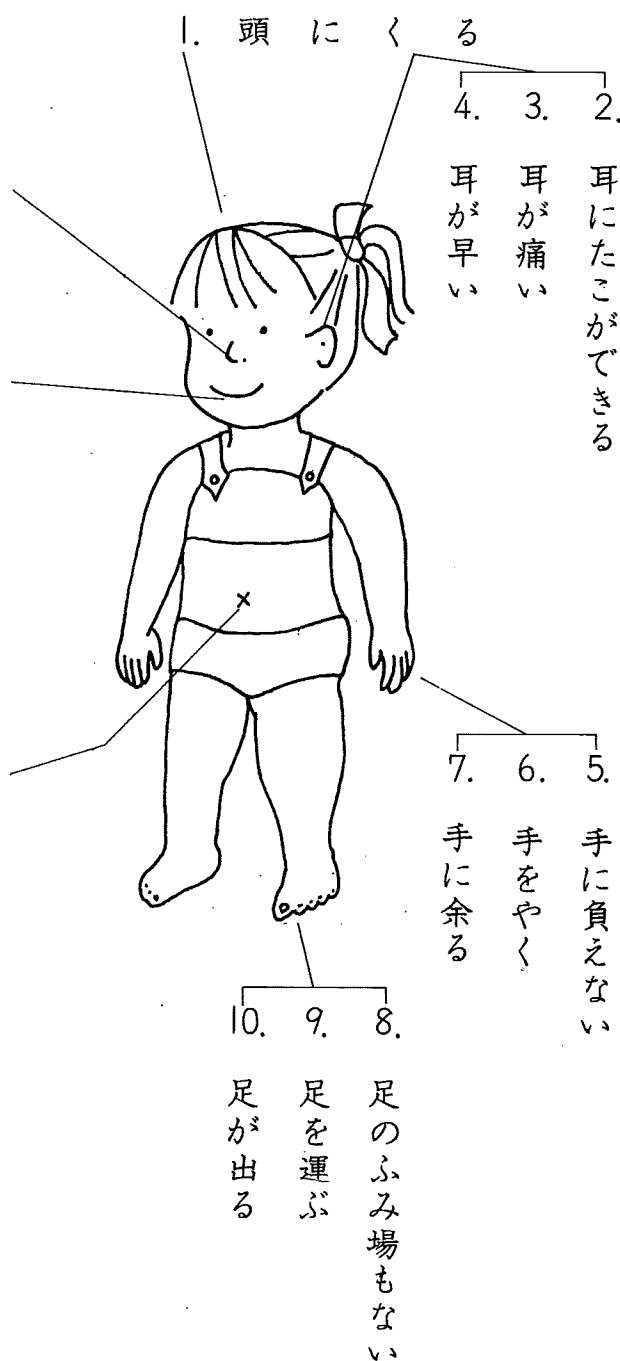
5	4	3	2	1	(例)
家	住	校	秋	行	海
					シ
					さんずい
11	10	9	8	7	6
銀	教	雲	顔	思	草
17	16	15	14	13	12
持	読	紙	暗	道	病

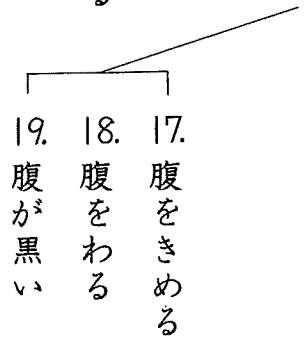
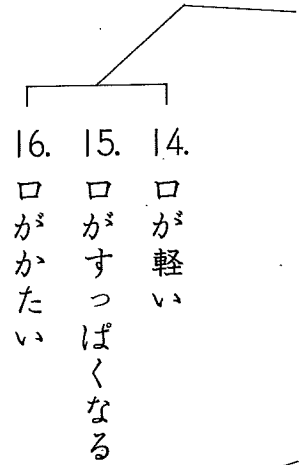
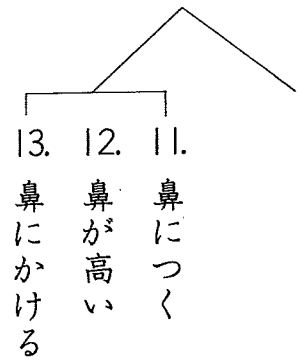
れんしゅう

つぎの漢字の部首をみつけ出し、部首の名まえを書いてみましょう。

(5) 慣用句を学びましょう

ことばの中には、いつもひと続きの決まった形で使われ、あるまどまった意味を表すことばがあります。たとえば、おこることを「腹をたてる」と言ったり、始末にこまることを「手をやく」と言ったりするのがそれです。このようなことばを「慣用句」と言います。慣用句の中には、人のからだの一部をさすことばがもとになってできたものがたくさんあります。次の絵をみて、慣用句の使い方を考えてみましょう。





1. かつとなる様子。
2. 同じことを何度も聞かされ、うんざりする。
3. 自分の弱点を言われて、聞くのがつらい。
4. 物事をすばやく聞きとる。
5. どうすることもできない。
6. 始末にこまる。
7. 自分の力では、どうすることもできない。
8. 散らかっているようす。
9. 出かけて行く。
10. 予定より使って、お金がたりなくなる。
11. あきあきして、いやになる。
12. 得意になっている。
13. 自慢する。
14. 言っではならないことを、すぐしゃべる。
15. 同じ注意などを、何度もくり返して言う。
16. 秘密をよく守り、簡単に話さない。

17. 決心けつしんする。

18. 心の中のことを、みんなにみせる。

19. 表面ひょうめんはいいが、心の中は悪い。

れんしゅう

1. 次の慣用句は、どんな意味を表しますか。

目め　　目めがきく。目めがない。

目めにうかぶ。

2. このほかにも、あるものにとどえて

言った慣用句があります。どんな意味を表すか考えてみましょう。

○水みづに流す。

○横車よこぐるまをおす。

口くち　　口くちが悪い。口くちをそろえる。

○筆ふでがたつ。

○立たて板いたに水みづ。

足あし　　足あしが棒ぼうになる。

○火かの車くるま。

○くぎをさす。

三		二		一		漢字	
サン		ニ		イツ	イチ	読み音	
み	み	み	ふ	ふ	ひ	ひ	読み訓
み	み	み	ふ	ふ	ひ	ひ	読み
3	一	2	二	1	一	画数 部首	
一 二 三		一 二		一		筆順	

六		五		四		漢字	
ロク		ゴ		シ		読み音	
む	む	む	む	よ	よ	よ	読み訓
む	む	む	む	よ	よ	よ	読み
4	ハ	4	二	5	口	画数 部首	
一 二 三 四 五 六		一 二 三 四 五		一 二 三 四 五		筆順	

16 生活基本漢字の読み方と筆順

1. まず、これだけはおぼえよう。基礎

黒	青	赤	枚	日	土	金
コク	セイ シヨウ	セキ シヤク	マイ	ニチ ジツ	トド	キン コン
くろくろい	あおい あおい	あかい あかい あかい あかい		かひ	つち	かな かね
11 黒	8 青	7 赤	8 木	4 日	3 土	8 金
口日甲里黒	一十主青青	十土赤赤赤	木木木木枚	1 日 日 日	一十土	八合今金金

前	中	小	大	字	黄	白
ゼン	チュウ	ショウ	ダイ	ジ	オウ コウ	ビヤク ハク
まえ	なか	おこ ちいさい	おおき おおい おおい	あざ	き	しろい しろい
9 前	4 中	3 小	3 大	6 字	11 黄	5 白
三前前	1 口中	1 小小	一 大	1 字字字	11 黄黄黄	1 白白白

明	右	左	熱	人	半	後
ミョウ メイ	ユウ ウ	サ	ネツ	ニン ジン	ハン	コウ ゴ
あーあ いーい かーか くーく るーる るーる るーる るーる るーる るーる	みぎ	ひだり	あつ い	ひと	な か り ば	あと う しろ ろ の ち
8 日	5 口	5 エ	15 心	2 人	5 十	9 イ
1 日 明 明 明	ノ ナ ナ 右 右 右	一 ナ 左 左 左	執 執 執 執 執 執 執 執 執 執	ノ 人	ノ ン 半	イ ナ 後 後 後 後

広	少	多	和	昭	正	治
コウ	ショウ ウ	タ	ワ	ショウ ウ	セイ イ	チ ジ
ひろ い	す く な い す く な い す く な い	おほ い	な ご む や わ ら い く		ただ い す ただ い す ただ い す	おさ ま る お さ ま る お さ ま る な お す な お す
5 広	4 小	6 タ	8 口	9 日	5 止	8 シ
コ ウ 広 広 広	シ ウ 少 少 少	タ タ タ 多 多 多	ワ 和 和 和 和 和	シ ウ 昭 昭 昭 昭	セイ 正 正 正 正	チ シ シ 治 治 治

下		上	
ゲカ	ショウ	ジョウ	ウ
おいろす	くだる	まーげる	したしも
3	—	3	—
— 下		— 上	

2 履歴書を書いておこしうー履歴書ー

生	女	男	名	氏
シヨウ	ニョウ	ナン	メイ	シ
いける	おんな	おとこ	な	うじ
5	3	7	6	4
生	女	田	口	氏
ノ	く	口	ノ	一
牛	女	田	ク	氏
牛	女	男	タ	氏
生		男	タ	氏
		男	名	

冷	
レイ	
さーめる	つめたい
7	ノ
ノ	
冷	
冷	
冷	
冷	

母	父	親	歳	年
ボ	フ	シン	セイ	ネン
はは	ちち	おや		とし
5	4	16	13	6
母	父	見	止	干
ノ	ハ	ノ	ト	ノ
母	父	親	止	年
母	父	親	止	年
母	父	親	止	年

子	妹	弟	姉	兄	妻	夫
ス シ	マイ	デ <small>グ</small> <small>テ</small> イ <small>イ</small>	シ	キ <small>ウ</small> <small>ケ</small> イ	サイ	フ <small>フ</small> ウ
こ	い <small>も</small> <small>う</small> と	お <small>と</small> う <small>と</small>	あ <small>ね</small>	あ <small>に</small>	つ <small>ま</small>	お <small>と</small> と
3 子	8 女	7 弟	8 女	5 兄	8 女	4 夫
フ 子	女 女 姉 妹	弟 弟 弟	女 女 姉 姉	兄 兄 兄	妻 妻 妻 妻	夫 夫 夫

歴	履	印	籍	本	所	住
レ <small>キ</small>	リ	イン	セ <small>キ</small>	ホン	ショ	ジ <small>ウ</small> ウ <small>ウ</small> ウ <small>ウ</small>
	は <small>く</small>	し <small>る</small> し		も <small>と</small>	と <small>こ</small> ろ	す <small>ま</small> む
14 止	15 戸	6 印	20 竹	5 木	8 戸	7 住
歴 歴 歴	履 履 履 履	印 印 印	籍 籍 籍 籍 籍	本 本 本	所 所 所 所	住 住 住 住

3. ひっこしのあと 一衣・食・住

階	屋	部	起	寝	食	衣
カイ	オク	ブ	キ	シン	ジキ ショク	イ
	ヤ		おきる おこす おこる	ねる ねかす	くう くろう たべる	ころも
12 阝	9 尸	11 阝	7 走	13 宀	9 食	6 衤
了 阝 阝 阝 階	一 尸 尸 层 屋	、 立 音 部 了 部	土 赤 走 起	宀 宀 宀 寢	人 人 食 食 食	一 衤 衤 衤 衣

肉	魚	油	米	飲	紙	家
ニク	ギョ	エ	マイ ベイ	イン	シ	ケ カ
	さかな うお	あぶら	こめ	のむ	かみ	や いえ
6 肉	11 魚	8 シ	6 米	12 食	10 糸	10 宀
冂 内 内 肉	ク 糸 畚 畚 魚	シ シ 汙 油 油	凵 二 半 米 米	人 人 食 食 飲	人 糸 糸 紅 紙	宀 宀 宀 家 家

頭	胸	口	骨	指	足	手
トズトウ	キョウ	ク コウ	コツ	シ	ソク	シュ
かしら あたま	むね むね	くち	ほね	さしゆび	たしる たしる あし	たて
16 頁	10 月	3 口	10 骨	9 才	7 足	4 手
一豆頭頭	月胸胸胸	一口口	一口骨骨骨	才才才指	一口足足足	一二三手

胃	血	首	顔	息	鼻	腹
イ	ケツ	シュ	ガン	ソク	ビ	フク
	ち	くび	かお	いき	はな	はら
9 月	6 血	9 首	18 頁	10 心	14 鼻	13 月
一口田胃	く白血血	シテ首首	ニカ立彦顔	ノ自自息息	自鼻鼻鼻鼻	月胎胎腹腹

付	受	入	急	救
フ	ジュ	ニウ	キウ	キウ
フク フケル	ウカ ウケル	ハイル イル イル	ソドク	ソク ソク
5 イ	8 又	2 入	9 心	11 文
ノイ イ 付 付	ノ 受 受	ノ 入	ク 急 急 急	一 才 求 求 救

5. おばあさんの病氣 — 病院 —

病	身
ヘイ ビョウ	シン
ヤマ ヤマ	ミ
10 才	7 身
ノ 病 病	ノ 身 身

診	見	外	科	内
シン	ニジ	ガイ	カ	ダイ
ミル		ソト カ ハズ ハズ ハズ		ウチ
12 言	7 ル	5 タ	9 禾	4 内
一 言 診	一 ル 見	ノ タ 外	二 禾 科	一 内 内

院
イン
10 才
三 才 院

保	役	共	公
ホ	エキ ヤク	キョウ	コウ
たもつ		とも	おおやけ
9 ノ	7 イ	6 ハ	4 ハ
イ 但 保	イ 役 役	一 十 廿 共	ノ ハ 公 公

6. ばくときみがかくらすまち — 公共施設 —

医	室	察
イ	シツ	サツ
	むろ	
7 □	9 宀	14 宀
一 二 三 医	宀 宀 室 室	宀 宀 察 察

職	社	福	健
シヨク	シ	フク	ケン
			すこやか
18 耳	8 不	13 不	11 イ
一 耳 聾 職	不 不 社 社	不 不 福 福	イ イ 健 健

薬	者
ヤク	シャ
くすり	もの
16 艹	8 耂
艹 苜 苜 藥	一 十 耂 者

看 カン 目 三手看 看	ク		注意してよく見よう 標識	郵 エウ 三手郵		行 アン <small>ギョウ</small> 一ノイ行		銀 ギン 金銀		園 エン 円園		定 ジョウ <small>テイ</small> 定		業 ゴウ <small>ギョウ</small> 業	
				おみなう ゆく いく				その		さだめる まる だ		わが			
	9	目		11	下	6	イ	14	金	13	口	8	ル	13	木

板 バン た 8 木 十木板	設 セツ 言設		施 セシ 方施		号 ゴウ 口号		番 バン 田番		警 ケイ 言敬		便 ビン 伊便			
	もうける		ほどす								たより			
	8	木	11	言	9	方	5	口	12	田	19	言	9	イ

危	常	非	意	注	識	標
キ	ジョウ	ヒ	イ	チュウ	シキ	ヒョウ
あやうい あぶない	とこ ふね			そそぐ		
6 卩	11 巾	8 非	13 心	8 讠	19 言	10 木
ノ ク ク ク 危	リ ル ル 常 常	ノ ナ ナ 非 非	ナ ウ 立 音 意	シ シ シ 注 注	言 証 識 識	木 和 木 木 極 標

引	押	動	自	煙	禁	險
イン	オウ	ドウ	シジ	エン	キン	ケン
ひーける ひーく	おーさる おーす	うーかす うーく	みーがら みー	けむる けむる けむる		けわしい
4 弓	8 扌	11 力	6 自	13 火	13 示	11 阝
フ コ 弓 引	一 扌 扌 扌 押	二 言 重 重 動	ノ イ 自 自 自	一 火 煙 煙 煙	木 林 禁 禁 禁	一 阝 阝 險 險

転	運	乗	車	通	交
テン	ウン	ジョウ	シヤ	ツ ツウ	コウ
ころーがる ころーげる ころーがす ころーぶ	はこーぶ	のーせる のーる	くるま	かよーう とおーす とおーる	まじーわる まじーえる まじーる まじーせる まじーわす
11 車	12 交	9 ノ	7 車	10 交	6 上
百豆車車転	一盲盲軍軍運	二二兵兵乗乗	一ロ百豆車	マ角角通通	一六六交

8、電車にゆられてー交通

出
スイ シュッ
だす てる
5 山
一十中出出

駅	路	道	特	鉄	地
エキ	ロ	トウ ドウ	トク	テツ	ジチ
	じ	みち			
14 馬	13 足	12 交	10 牛	13 金	6 土
一厂馬馬駅	ロ甲足路	ソニ首首道	ノト牛牝特	ノ金金鉄	一十土地

洗
セン
あらう
9 シ
シシ洗洗

夜	夏	雨	川	花	春	9 わたしの四季 ——自然——	普
ヤ	ゲカ	ウ	セン	カ	シン		フ
よるよ	なつ	あまあめ	かわ	はな	はる		
8 夕	10 夕	8 雨	3 川	7 花	9 日	12 日	
ニイ夜夜夜	一ナ百夏	二口雨雨	ノ川川	一ナナイ花花	一三夫夫春		ソ并前並普

海	昼	空	木	草	田	期	
カイ	チュウ	クウ	モク	ソウ	デン		ゴキ
うみ	ひる	あそから あそく あそける から	こき	くさ	た		
9 海	9 日	8 穴	4 木	9 草	5 田	12 月	
シシ海海	フコ尺昼昼	一口空空	一十才木	一ナ草草草	一口田田田		一廿其其月

営	社	会	事	仕
エイ	シャ	エカイ	ズジ	ジシ
いとなむ	やしろ	あいう	こと	つかえる
12 ツ	7 ネ	6 人	8 事	5 イ
いっせい 営	いっせい 社	いっせい 会	いっせい 事	いっせい 仕

いろいろな仕事 — 職業 —

村	市
ソン	シ
むら	いち
7 木	5 巾
いちの木村	いちの巾市

務	働	届	店	商
ム	ドウ		テン	ショウ
つとめる	はたらく	とどける とどく	みせ	あきなう
11 カ	13 イ	8 戸	8 店	11 口
まがら 務	いっせい 働	いっせい 届	いっせい 店	いっせい 商

岡	町
トズ	チヨウ
はかる	まち
7 口	7 田
いっせい 岡	いっせい 町

強	勉	教	校	学
ゴウ キョウ ウ	ベン	キョウ ウ	コウ	ガク
つよーい つよーまる つよーめる しいる		おしーえる おそーわる		まなぶ
11 弓	10 カ	11 文	10 木	8 子
コ弓 弘 弘 強 強	ク 名 名 免 勉	ナ 士 考 考 教 教	ノ 木 木 木 校 校	ツ 学 学 学 学

12. 楽しい勉強 — 学校生活 —

合	組
カッ ガッ ゴウ	ソ
あーわす あーわせる あーう	く く む む
6 口	11 糸
ノ 人 人 合 合	く 糸 糸 組 組 組

徒	終	始	間	週
ト	シュウ ウ	シ	ケン カン	シュウ ウ
	おーえる おーわる	はじーまる はじーめる	ま あ だ	
10 彳	11 糸	8 女	12 門	11 支
彳 彳 徒 徒 徒	糸 糸 終 終 終	く 女 女 始 始	ノ 門 門 間 間	ノ 周 周 週 週

残
ザン
のこーる のこーす
10 歹
歹 歹 残 残 残

楽	音	英	理	数	語	国	
ラ ク	ガ ク	イ ン	オ ン	エ イ	リ	ス ス ウ	ゴ ク
たのし む	たのし い	ね	お と			かた らう	かた らう
13	木	9	音	8	王	13	文
14	言	8	口	11	王	13	文
白 海 遊 楽	立 音 音	一 音	一 王 理	一 米 数	言 言 語	口 口 国 国	

式	卒	技	育	術	美
シ キ	ソ ツ	ギ	イ ク	ジ ユ ツ	ビ
		わ ぎ	そ だ つ		う ま い
6	弋	8	十	7	才
8	月	11	行	9	羊
一 式 式	一 卒 卒	一 才 才 技	一 育 育	一 術 術 術	一 羊 羊 美

13. 外に向かつて目を開こう——社会生活——

無	送	放	聞	新	界	世
ブム	ソウ	ホウ	モン ブン	シン	カイ	セ セイ
ない	おくる	はなす はなす はなす はなす	きこえる きこく	あたらしい あらた にい		よ
12 𠄎	9 𠄎	8 𠄎	14 𠄎	13 𠄎	9 𠄎	5 𠄎
ム ム 無 無 無	ソ 送 送 送	フ 放 放 放	ド 聞 聞 聞	シン 新 新 新	カイ 界 界 界	セ 世 世 世

貧	悪	良	政	害	任	責
ビン ヒン	オ アク	リョウ ウ	シヨウ セイ	ガイ	ニン	セキ セイ
まずい	わるい	よい	まつりごと		まかせ まかせ	せめる
11 貝	11 心	7 良	9 文	10 𠄎	6 𠄎	11 貝
ハ 分 分 貧	一 悪 悪 悪	リ 良 良 良	シ 政 政 政	ガイ 害 害 害	ニン 任 任 任	セ 責 責 責

心		言		見	
シン		ゴン	ゲン	ケン	
こころ		こと	いごう	みる	みえる
4	心	7	言	7	見
心		言		見	

持		命		性	
ジ		メイ	セイ	セイ	
もつ		いのち			
9	才	8	口	8	忄
才		命		忄	



昭和51年3月
昭和59年3月改訂

東京都公立中学校二部授業資料開発委員会
東京都教育庁指導部
